

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	中庭での園芸や散策、神社への散歩、買い物、地域の作業所の出張喫茶、家族会での遠出などの支援を行っているが、現在、個別の外出支援の在り方を検討している。	これまでの外出に加えて、本人の状態や有する力、希望、季節に応じて、1人ひとりが楽しめるような個別の外出を支援する。	担当職員が、1人ひとりの行きたい所、希望などを把握したうえで、各人の外出プランを立て、家族とも協力しながら、その実施に向けて取り組む。	12ヶ月
2	8	成年後見制度については、利用されている方もおられ、職員間で話し合う機会もあるが、権利擁護に関する制度とその活用に向けての職員研修は今後の課題である。	全職員が権利擁護の重要性や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、その活用に向けて支援ができるようにする。	権利擁護に関する制度の正しい理解とその活用のための勉強会を、実際の入居者の活用例をケーススタディとして進める。	12ヶ月
3	7	虐待の防止については、とくに職務上のストレスが言葉や態度等による心理的虐待につながらないよう配慮している。	初任者に対する虐待防止研修の実施とともに、虐待につながりかねないストレスの軽減などに取り組む。	月1回程度、管理者が職員一人ひとりと面談の時間を持ち、体調やストレスの有無などを把握し、場合によってはその軽減など精神衛生面からのアプローチを行うとともに、職務等に配慮する。	6ヶ月
4	35	消防署の協力を得て、防災避難訓練は実施しているが、震災(津波)に備えての備蓄はできていない。	津波時の避難先は確保しているが、備蓄については、その必要性も含め検討していく。	水や調理が不要な食品、衛生用品などの備蓄について、運営推進会議、法人役員会等で話し合い、その結果を踏まえて、今後の対応を検討する。	12ヶ月
5	10	利用者や家族へは、担当職員が連絡や報告などに当たっているが、その異動があった場合については家族に報告していない。	担当者とその異動について報告し、家族との関係を深めることによって、利用者とともに支える信頼関係を醸成する。	現在、発行している「花水木新聞」(季刊)に、担当者や新任者のプロフィールを紹介したり、家族との交流欄を設け、家族との意見交換の場にする。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。